

「令和 7 年度発掘速報展」開催

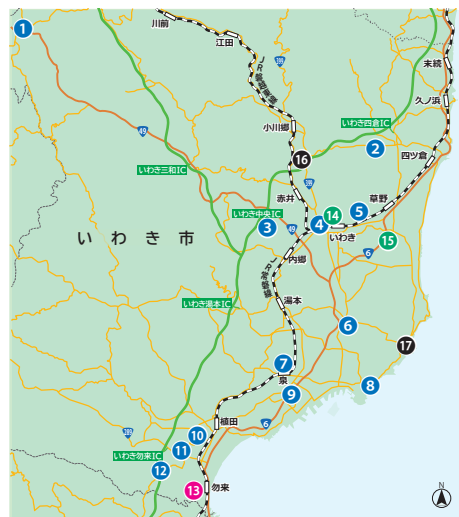


南上空から見た北作B遺跡A区 ※東西方向に延びる稜線上に土塁状遺構が構築されている。

令和 7 年度は、1 遺跡（2 地点）の本調査、12 遺跡の試掘調査、2 遺跡の報告書作成・刊行を行いました。国道 6 号勿来バイパス延伸工事に伴う丘陵上の発掘調査を行った北作 B 遺跡（A 区・C 区）では、弥生時代の埋設土器、古代の遺物包含層・木炭焼成遺構、土塁状遺構、近世の祭祀遺構などが見つっています。報告書作成業務では、磐城平城二ノ丸付近の外堀跡やそこから出土した近世～昭和初期の遺物を掲載した「平城跡 6」、根岸官衙遺跡群に関連する掘立柱建物跡や墨書土器、中世の新屋敷館跡に関連する堀跡などを掲載した「砂畑遺跡」を刊行しています。梅ノ作瓦窯跡群と餓鬼堂横穴群については、報告書刊行に向けた整理作業と原稿作成を実施しました。

令和 7 年度発掘調査・整理・報告書刊行遺跡一覧

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 三坂城跡〔隣接〕（三和町上三坂） ② 大野条里跡（四倉町山田小湊） ③ 田代原 A 遺跡（好間町上好間） ④ 平城跡 44・45 次（平字旧城跡） ⑤ 上神谷条里跡（平上神谷） ⑥ 木船遺跡（鹿島町久保） ⑦ 道下遺跡（泉玉露） ⑧ 下神白館跡（小名浜下神白） ⑨ 谷地川遺跡（泉町下川） ⑩ 花ノ井 B 遺跡（錦町花ノ井） ⑪ 坂ノ上遺跡（勿来町大高） ⑫ 関根遺跡（勿来町酒井関根） ⑬ 北作 B 遺跡（勿来町四沢） | <ul style="list-style-type: none"> ⑭ 平城跡 26・34・37 次（平字柳町） ⑮ 砂畑遺跡（平菅波） ⑯ 梅ノ作瓦窯跡群（小川町下小川） ⑰ 餓鬼堂横穴群（平薄磯） |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
-
- | | |
|---------|--------|
| ● 試掘調査 | ● 発掘調査 |
| ● 報告書刊行 | ● 整理作業 |



令和 7 年度調査遺跡位置図

令和7年度 本調査実施遺跡の成果

北作B遺跡

北作B遺跡の調査は、国道6号勿来バイパスの延伸工事に伴い実施しています。遺跡は太平洋に向かって延びる丘陵上に位置しており、令和5年度に実施した北側の調査(D区・E区)では、縄文時代・弥生時代の^{たてあな}竪穴建物跡や須^{えき}恵器の集中地点などが見つかっています。令和7年度は、丘陵最南端のA区・C区の調査を実施しました。

A区の調査 A区では2面の調査を行い、第1面からは^{さいし}祭祀遺構と^{どるいじょう}土塁状遺構が確認されました。近世の祭祀遺構では多数の^{かんえい}寛永通寶(江戸時代のお金)が多数見つかり、お金を投げ入れることで^{じちん}地鎮などを願ったものと考えられます。土塁状遺構は東西に延びる尾根上^{きず}に築かれており、頂部中央には溝が掘り込まれていました。土塁は調査範囲の東西全体に及び、高さ1.5m以上の大規模な盛土がされていました。時期が分かる遺物は見つかりませんが、この丘陵上に立地したとされる中世城館^{きたのさく}の北ノ作^{たてあな}館跡に伴う施設と考えられます。

この盛土を取り除いた第2面からは、^{もくたん}木炭焼成遺構が5基見つかりました。穴の壁面が真っ赤に焼き締まっており、内部からは多量の炭化物が出土したことから、炭などを焼いた土坑と考えられます。

C区の調査 C区でも2面の調査を行い、第1面では西から北に向かって曲がる尾根上に土塁状遺構が検出されました。A区と同じく、丘陵全体に盛土を行ったと推定されます。特に、北側では高さ1m以上の盛土で二重の土塁を築き、その間に溝を掘って道とする構造になっていました。この付近の尾根一帯に土塁が築かれ、北ノ作館跡を囲っていたと推定されます。

この土塁を掘り下げた第2面から木炭焼成遺構が6基見つかったほか、埋設土器が1基確認されました。埋設土器は調査区ほぼ中央の尾根上で検出され、土器が横倒しになった状態で見つかりました。この土器は弥生時代に位置づけられ、この中に遺骨^{いこつ}を入れてお墓^{はか}として使われた可能性が考えられます。



北作B遺跡A区 丘陵上に築かれた土塁と溝



北作B遺跡A区 第1号焼成遺構

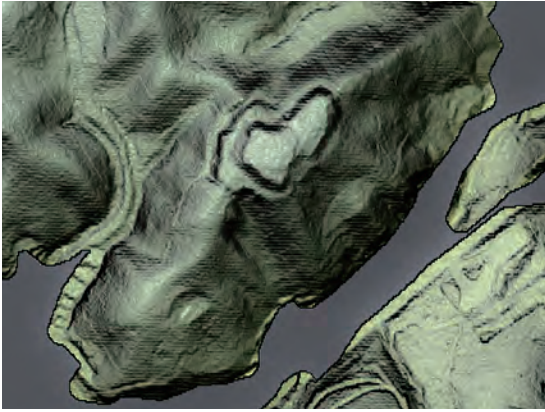


南上空から見た北作B遺跡C区全景



北作B遺跡C区 尾根上に埋設された弥生土器

令和7年度 試掘調査実施遺跡の成果



三坂城跡(隣接)の起伏図 ※カシミアール3Dで作図

三坂城跡(隣接)

道路改良工事の予定地に未登録の城館跡が存在する可能性があることから、現地踏査を行いました。踏査に当たっては、地元の研究者が平成25年に作成した縄張り図を参考にしました。現地では、明瞭な平場・堀切・横堀を確認でき、未発見の城館跡であることが分かりました。

近年では高精度標高データによる詳細な起伏図が作られており、本調査地点の踏査で確認した遺構も地図上でははっきりと確認することができます。

木船遺跡

いわき市鹿島町にある、矢田川に開析された左岸の台地北端に位置する遺跡で、調査前は整地された階段状の畑地となっていました。整地により高い場所は岩盤まで削られていましたが、低い場所は盛土で覆われており、その下層で縄文時代から中世の遺物包含層が見つっています。遺跡のある台地上段の平場でも多くの遺物が採取できることから、台地の上で暮す人々の使った道具が低い場所に流れ込んで集まったと考えられています。

この遺物包含層や溝跡からは、縄文土器・弥生土器・土師器・中世陶器などの遺物がまとまって出土しています。

大野条里跡

いわき市四倉町の仁井田川により形成された東西に長い谷地に立地する遺跡です。現況は広大な水田で、古代条里の区画を生かしながら、旧地形の整地・盛土をくり返して現在まで水田耕作が続けられてきました。

今回の調査は圃場整備に伴い実施されたもので、約326,000㎡の広大な範囲に15本の試掘トレンチを設定して調査を行いました。各調査トレンチから、旧地形に伴う流路跡、各時代の水田耕作層・整地層が検出され、その下層から土師器など古代以前の遺物が出土しています。

第4号トレンチでは、縄文時代晩期の竪穴建物跡から縄文土器や石器が大量に出土しています。石材の種類が異なる石核・剥片に混じって、石鏃や磨石・敲石、土偶の破片(腕の部分)が見つっています。



木船遺跡 第7号トレンチ出土弥生土器



大野条里跡 第4号トレンチ調査状況



大野条里跡 出土遺物 石鏃(左)・土偶(右)

令和7年度 報告書刊行遺跡の概要

平城跡 6

平城跡の調査は、搔樋小路幕ノ内線の改良工事に伴い実施しました。

調査地点は江戸時代の磐城平城の北東部です。江戸時代には磐城平城の外堀とその東岸で、岸は侍屋敷の敷地や道として利用されていました。明治時代に城は廃城になりますが、堀はそのまま残りました。明治末から昭和初期にかけて東岸の一部を埋めて宅地として使われ始めますが、完全に埋め立てられたのは昭和20年代になります。

堀が造られてから埋め立てられるまで約350年間あり、この間に堀に捨てられた様々なものが出土しました。しかし、江戸時代のものは非常に少なく、遺物の大部分は明治以降のものでした。



平城跡(37次調査) 外堀跡完掘全景



平城外堀跡で出土した陶磁器

砂畑遺跡

砂畑遺跡の調査は、新屋敷・南作線の改良工事に伴い実施しました。遺跡は、夏井川河口から南西に約3.0kmの地点に位置しており、砂丘堆積物からなる浜堤上に立地しています。

調査の結果、平安時代・戦国時代・江戸時代の遺構と遺物が見つかりました。平安時代では建物群と区画施設、墨書土器などが見つかり、古代磐城郡衙に関連する遺構・遺物と考えられます。戦国時代では建物跡と堀跡が見つかり、調査地点に隣接する新屋敷館跡に伴う施設と考えられます。江戸時代では建物跡・道路跡などが見つかり、調査地点周辺が屋敷地として利用されていたことが明らかとなりました。



砂畑遺跡で出土した墨書土器 左:「田島」か 右:「田」



砂畑遺跡で出土した陶磁器

